

第5回乙訓圏域障がい者自立支援協議会発達障がい児・者支援部会会議録

日時 平成26年4月22日(火) 午前10時から12時

場所 乙訓保健所 2階 講堂

出席者 発達支援部会委員 14人

キャンパス・乙訓ひまわり園・NPO法人こらぼねっと京都・乙訓ポニーの学校・向日が丘支援学校(代)・乙訓教育局・乙訓の障害福祉を進める連絡会・乙訓保健所福祉室・向日市障がい者支援課・向日市学校教育課・長岡京市健康推進課・長岡京市学校教育課・大山崎町健康課・大山崎町福祉課(代)

運営委員 4人 事務局 1人

欠席 アイリス・乙訓保健所保健室・向日市健康推進課・長岡京市障がい福祉課・大山崎町学校教育課

会議の公開・非公開 公開 傍聴 2人

配布資料 次第・平成25年度発達障がい児・者支援部会活動報告(案)・障がい者、疾病、行動等の記録がある資料、ファイル・発達障がいの状況と課題のまとめ

資料確認

1. 開会

(部会長)

・年度初めのお忙しいところお集まりいただきありがとうございます。25年度の発達障がい児・者支援部会ということで年度を跨いだ形になってしまい本来の部会員方とそうでない代理の方も出席していただきありがとうございます。今日の中で今年度のまとめと部会の在り方そのものについて少し検討をしていきたいなと思っているので活発なご意見等皆様方からいただければ非常にありがたいと思う。よろしくお願いします。

2. 今年度のまとめ

3. 発達障がい児・者支援部会の次年度の在り方

(部会長)

・副部会長の方から資料を元に説明させていただきたいと思う。

(副部会長)

・今日は発達障がい児・者支援部会活動報告(案)ということで部会員の皆さんにはお目通しいただき、25年度の活動報告の中身の確認と活動報告書を全体会の中でも報告をさせていただくので誤字、中身の検討を含めご意見をいただければと思っている。よろしくお願いします。

※平成25年度『発達障がい児・者支援部会活動報告(案)』読み上げ

・別紙資料として今日は付けさせていただいていないのだが、パンフレット「子どもの発達を支援するために」・「障がい、疾病、行動等の記録がある資料、ファイル」ということで全体の報告のところに関してはこの2点を添付資料として付けさせていただこうという風に考えている。取り組みの状況と定例会の開催についてはそれぞれ日時と開催場所と簡単な内容について書かせていただいている。間違いがないかどうかまた確認をしていただければと思う。まず一旦、1. 2. 3. のところで誤字脱字等含めてご意見をいただければと思う。

(部会長)

・今回出させていただいた報告がそのまま自立支援協議会の26年度の全体会での25年度の発達障がい児・者支援部会の報告となる。この資料がそのまま出る形になる。それについて別添としてパンフレットと「障がい、疾病、行動等の記録がある、資料、ファイル」を付けた形で報告をさせていただこうと考えている。ここまでのところでご意見、文言、表現、誤字・脱字等があればよろしくお願いします。

(伊藤委員)

・1のところでは一番最後の文章の終結が「検討することになる。」となっているのだが、こういう表現は今までの報告の中では「検討することになった。」と過去形であったりしているので違和感がある。1が設置の目的であれば、2は部会取り組みの経過と「の」が要ると思う。3行目「福祉サービス等の利用を活用できることを『誰に』周知する事」と「誰に」が要ると思う。「配布した」とはあるのだが、そこは事が明確になるので「誰に」があった方が良いと思う。学校に配布して狙いは先生方なのでそこに要るかなと思う。それから、(課題整理表)は添付しないと思う。添付資料には入っていないと思うので、「出来なかった。(課題整理表)」と書いてしまうと添付しないといけなくなる。ただ、課題整理表は覚書で添付すべき資料ではないと思うので、課題整理表を作ったということを入れたいのであれば本文の中に入れる方が良いのではないかと思う。「アンケートを取り、課題整理表としてまとめたが部会で議論できるまで活用することができなかった。」というのであれば課題整理表をあえて入れる必要がないかもしれないので、課題整理表という言葉を入れる必要があるのかないかを議論した方が良いように思った。その次の行の「情報共有の部分で」のところは「何の情報共有なのかが出てこないで、何の情報共有で、親や本人が持てる何の情報なのかが不明確になるので「何の」という言葉は入れた方が良いように思う。この支援ファイルをもとめた表、「年齢別の『障がい、疾病、行動等の記録がある、資料、ファイル』をもとめた」とあるが、それがこの間の表だと思うが他に何か言い方はないのだろうかと思う。つまり、この部会に来られていない方が読まれて、来年、再来年の方が読まれて理解できないと困るので何かもう少し説明がないのかと思った。

(部会長)

・他にはないだろうか。後でまとめて整理・修正をさせていただきたいと思う。

(兒玉委員)

・細かいことだが「事」というのが漢字で表記されているのだが普通は平仮名を使うように思う。役所だけかもしれないが漢字がいっぱい出てくるので平仮名表記の方が良いように思う。

(杉本委員)

・「障がい、疾病、行動等の記録がある資料、ファイル」だが下の線が切れているのか、それとももう一行あるのかが分からないように思う。

(長藤)

・コピーの関係で印刷の時に下の罫線が切れているだけである。印刷位置を工夫してきちんと仕上げたいと思う。

(部会長)

・ここについてはまた修正をさせていただく。

(村田委員)

・母子手帳とあるのだが正式名が「母子健康手帳」なので「健康」を入れていただければと思う。

(宮脇委員)

・質問しても良いだろうか。「設置の目的」というのはこの一年だけの設置の目的なのだろうか。それとも、普通、発達障がい児・者支援部会と何年間か繋がるのであればその中で何をやるかということの目的だと思う。「二市一町教育、保健、福祉分野の連携を深め～を検討することとする。」等という中身だと思う。今年一年のこの目的なのか、これから何年も開いていくこの部会の目的なのか、そこを明確にする必要があるのではないだろうか。

(伊藤委員)

・だいたい昨年度までの経過というのが1にきて、2に今年度の取り組みの経過で、この3行の文章が下に入る書き方をしていくのだと思う。

(部会長)

・他に如何だろうか。文章を大きく変えたり、付け加えるところは後でまとめて検討・議論ができればと思う。それでは1～3のところでもまず抜けている文字、文字の修正だけ先に整理をすると、1. 設置の目的のところの3行目の「検討する事になる。」の「事」を平仮名に変えるのと「検討することになった。」と変える。2. 部会取り組み経過のここ

るで「取り組みの経過」ということで「の」を入れる。3行目最後の「活用する事を周知する事ができた。」と「事」が2回入っているので「事」を平仮名にして「活用できることを周知できた。」と変更する。上から5行目の真ん中辺り、「活用する事ができなかった。」のこの「事」も平仮名に変更する。「障がい、疾病、行動等の記録がある資料、ファイル」の表の「母子手帳」のところを「母子健康手帳」と変更する。単純な文字の修正については以下の通りである。

2. 部会取り組みの経過のところの3行目の誰に対して周知することができたのかというところだが、どういう表現が良いだろうか。「教員の皆さんに」ということではあるのだが、何かこの言葉は良いのではという言葉はあるだろうか。

(伊藤委員)

・その前の「福祉サービス等の利用を活用できる」というのは「利用」と「活用」が被っているかと思う。福祉サービス等について福祉サービスがあることを全職員、平たく言うと担任を持っている先生方という直接子どもに関わっている先生方と言いたいことはそこののだが、どう表現して良いかわからない。福祉サービスについて周知ができたのか、福祉サービスを活用すること、もしくは福祉サービスを利用する方法を周知できたのか、どちらなのかという確認が要るかもしれない。

(宮脇委員)

・周知をして利用を促進する等、両方名記しておけばそれが目的になったのかと思う。

(伊藤委員)

・福祉サービスについて周知し活用を促進する。これが目的になる。あとは「誰に」をどう表現するかになる。

(宮脇委員)

・必要な子どもに対し等はどうか。

(伊藤委員)

・周知は「子ども」に対してではない。

(宮脇委員)

・周知は「先生」に対してである。

(伊藤委員)

・どんな表現が良いのだろうか。

(宮脇委員)

・「教員」で良いかと思う。

(部会長)

・「教職員」ではなくて「教員」で良いのだろうか。

(宮脇委員)

・教職員だと事務職員も入ることになる。

(伊藤委員)

・要はコーディネーターの先生や管理職の先生方だけでなく、そのクラスを持っておられる先生方というのが狙いだっただけなのでその表現が必要かと思う。

(宮脇委員)

・そうであれば「教員」である。

(日野委員)

・周知についてだが周知ができた評価をこの部会でするというところだろうか。一応、乙訓圏域の二市一町で学校に配布されたということは伺ったように思うのだが、どのような配布の仕方だったのか、どういった説明が具体的に伴われたかということはこの部会では聞いていない。周知と言い切ってしまうと本当に良いのかどうか、その辺りがこの場でわかるのであれば伺いたいと思う。むしろ目的として周知することだったと思う。福祉サービスの活用、促進することも目的だったと思う。ただ、評価や総括が現実事例として上がっているのか等、そこをなしに周知できたという表現で良いのだろうか。

(部会長)

・その辺りのことも含めてだと思ふ。

(宮脇委員)

・パンフレットを配布したのは周知のために配布したのだと思ふ。それならば、こここのところの文言を入れ替えたらどうなのだろうか。「不十分だった点を再認識し、福祉サービス等の利用、何が入るか分からないが、周知するために各行政機関の福祉課あるいは教育委員会を通して小中学校にパンフレット1200部を配布した。」と文章を入れ替えたのなら「周知するために」となるので日野委員も納得できるのではないだろうか。

(伊藤委員)

・現実としてそこまでである。

(部会長)

・2のところの頭だが「昨年に～(中略)～再確認し、」の後、どうすれば良いかもう一度教えていただきたい。

(宮脇委員)

・「福祉サービス等」からの文章を持ってきてはどうだろうか。「福祉サービス等の利用を教員に周知するために各行政機関の福祉課から各教育機関を通し小中学校にパンフレット1200部を配布した。」でどうだろうか。文末を揃えるなら「配布した。」となると思ふ。

(副部会長)

・一度読ませていただく。「昨年に引き続き～(中略)～再確認し、福祉サービス等の利用を教員に周知するため各行政の福祉課から各教育機関を通し小中学校にパンフレット1200部を配布した。」

(伊藤委員)

・ここは二つ並べるのではなかっただろうか。福祉サービス等について知らせることと活用を促進することを二つ並べてはどうかということだったと思ふ。

(五十嵐委員)

・とりあえず、そういう内容で構成していただいて、再度配信していただく方が早いと思ふ。ここで細かく全部文言を決めてしまうというのは前後の言い回し等非常に難しいところもあるかと思ふので、こういう意図を伝えたいというところと入れ替えながら大きいところを確認していただいて、最終確認をもう一度とっていただければありがたいかと思ふ。

(部会長)

・もちろん修正したものはもう一度配信させていただくのだが、前後の流れからもう少しこうした方が良いのではないかと等々当然意見としてあるかと思ふ。その都度、何回も何回もとなるべくならないようにと思ひ、しつこく文章の方の整理をさせてもらったつもりなのだが、一度こここのところについてはきれいなものを読んでいただいた上でもう一度検討していただければと思ふ。それから、課題整理表のところだが、これについては添付しないので、ここに課題整理表というのがあるというのは括弧付けではなくて、「その後共通の課題を各部会員から上げてもらうようアンケートをとり、課題整理表をまとめたが集約するにとどまり」という形でどうだろうか。

(五十嵐委員)

・その部分だができれば「集約した。」までで、とどめていただき、後半の課題のところ、その活用等を入れるなりした方が良いでしょう。できなかったことは次の年の課題だろうから、できたことをきっちりと書いていく方が良いでしょう。なぜ、アンケート調査をすることになったかということを少し入れていただき、まとめることができたというところで、次の課題で次年度のところにその活用方法やまだ具体的に進めなかった部分というのを記載するというのは如何だろうか。

(部会長)

・こここのところは良いだろうか。それでは、次に行かせていただく。「情報共有の部分で」というところだが、どういった「情報共有の部分で」という表現についてどうだろうか。

(伊藤委員)

・今のところはそれでも文章ができるだろうか。文章の文言の細かい語尾や構成については後で全部を見てやらないときっと今ここではやり切れない。何について書くかというところを整理することによって何をしてきたのかということを通の認識にするのがこの会議なのでそこは議論した方が良くところだと思う。続けて言わせていただくと、その後というのはどの後かというパンフレットを配った後という意味だったと思う。だけど実際はパンフレットはパンフレットの作業としてやっていたのだが前年度までの経過の中で就学前の子ども達への支援については一定整理が終わり実行できた。その後、育ちにくさや色々な課題を持った子ども達への対応としての共通の課題整理をしようとしたけれども焦点を絞り切れなかったというのが今年度の実態である。その後そのものがどこに係っているのかというのも今、五十嵐委員が言われたように何故この課題整理をしようとしたかという文言がないと不明確になるのでその何かの一文を入れたいといけなように思う。共通の課題というのは何の共通の課題なのか。

(五十嵐委員)

・それをまとめたのは各世代、年代による状況と課題をもう一度洗い直し明確にしましょうということでアンケート調査をとったと思う。関わっている部分がそれぞれ年代によって違うので、この大きな一覧表が出来上がったと思う。文章的にはその後はいらないと思っているのだが、発達障がい状況と課題を明確にするためアンケート調査を行ったということが入れれば良いのではないだろうか。ここの表のタイトルをそのままここへ持ってこれば、これが目的で明確になるのではないだろうか。

(部会長)

・「その後」は取るとして「共通の課題」という部分をどうすれば良かったらうか。

(五十嵐委員)

・「状況を明確にするため」としてもらい、「各部会員から上げてもらうよう」とあるのだが、「各部会員にアンケートを実施し集約した」というような感じで良いのではないだろうか。

(部会長)

・今のところを整理したいと思う。

(伊藤委員)

・「発達障がい児・者に関わる状況を明確にするため、各部会員にアンケートを取り、課題整理表として集約した。」となる。

(部会長)

・ありがとうございます。今ので良いだろうか。ここの2行についてはまた配信したものを読んでいただければと思う。次の「情報共有」の部分だが、先程のご意見の中では「何の情報共有」ということだった。

(五十嵐委員)

・情報共有を図ったのは各年代によってどういう資料を本人や親御さんが持っておられるのかを共有の情報とするためにまとめられたかと思う。単純に「年齢別の障がい、疾病、行動等の記録等の情報をまとめ情報共有の資料を作成した。」でどうだろうか。

(伊藤委員)

・この「共有」は誰の「共有」になるのだろうか。この文章だと親の持っている情報となるので親との情報共有になってしまう。

(部会長)

・「共有」というのが「持っておられる情報を整理した」という形でやったことだと思う。「共有」という言葉が少し違うのかもしれない。

(伊藤委員)

・今言われた「持っておられる情報を整理した」の主語は誰だろうか。ここにいる部会員がそれぞれ持っている情報をここで共有したということではないのだろうか。

(部会長)

・そうではない。ご本人と親御さんということである。何か良い表現があればお願いしたい。

(五十嵐委員)

・意図としては本人さんや親御さんが持つておられる情報がどういうものがあるかということを年代別に部会員が共有できるように集約したということがやったことである。

(部会長)

・他にここの部分でご意見はあるだろうか。

(伊藤委員)

・シンプルに「本人に関わる情報を年齢別の障がい、疾病、行動等の記録がある資料、ファイルとしてまとめた」としてはどうだろうか。「本人に関わる情報を部会員から出し合い年齢別にまとめた」とやったことをそのままストレートに書いた方が誤解がなくて良いかもしれない。

(宮脇委員)

・箇条書きにした方がわかりやすい。(1)パンフレットの件、(2)課題整理表の件、(3)共通理解した件、ということで両括弧書き(1)・(2)・(3)とした方がわかりやすいと思う。

(部会長)

・今言っていたのがシンプルで良いように思う。箇条書きにする中で今のような表現で書くということが良いだろうか。確かに(1)・(2)とした方が書いている方も、読む方もわかりやすいので、それについては別立てで考えたいと思う。それは組み立ての部分なので、次に「障がい、疾病、行動等の記録がある、資料、ファイル」のところの表現についてだが。

(伊藤委員)

・それはもうそのままにしておいて、その後ろにパンフレットが添付資料1なので、添付資料2と括弧書きで入れておけばどうだろうか。

(部会長)

・では、ここはこのままでいって良いだろうか。別添資料のところでもわかりやすいように引っ張っていくという風にしたと思う。その後の文章については特に何もなかったので、「それと並行し」だが、これも要らないかと思う。

(伊藤委員)

・要らないと思う。「京都府から説明する機会を設け」となると誰に説明するのかというのがあるので「京都府の説明を聞く」等、主語がこちらになった方が部会で聞いたことなので講演会や説明会をしたわけではないので、「ポイントの説明を受ける機会を設け」としてはどうだろうか。

(五十嵐委員)

・学習会として位置付けるのであれば「京都府からの学習会を実施した。」だけで良いかと思う。「部会員に参画」等も要らないと思う。

(部会長)

・これについては前回の次第の中でも研修会ということで位置付けているので学習会なり研修会という表現でいかせていただく。

(伊藤委員)

・次第通りにしておいた方が良いかと思う。

(部会長)

・では、研修会とさせていただきます。

研修会として

(伊藤委員)

・箇条書きで書くなら「研修会」として「京都府の〇〇から説明を受ける」で良いかと思う。

(部会長)

・3番のところに小項目として「研修会」と持ってきて、その後で「説明を受けた。」とさせていただく。最後の2行、「乙訓での～(中略)～報告であった。」は如何だろうか。

(五十嵐委員)

・「参考となった。」だけで終わってしまって良いのではないだろうか。

(部会長)

・次の「別紙資料」は「別添資料」とし、1.パンフレット、2.「障がい～(中略)～ファイル」とさせていただく。最初のところ、「設置の目的」のところだが。

(宮脇委員)

・私が言ったのは設置の目的というのは今年一年の設置の目的ではないと思うということである。

(部会長)

・このまま活かすのであれば設置の目的自体がこの3行とは少し合っていないところがある。この3行をそのまま活かすのであれば「設置の目的」という表現ではない。

(宮脇委員)

・「設置の目的」を変えるのか、それとも文言を変えるのか。「設置の目的」という項で置いておくのであれば、例えば、「二市一町の教育・保健・福祉分野の連携を深め、子どもの発達を支援するために多面的・多角的に協議・検討することとする。」という風な文言にすれば何年も活用できる目的だと思う。目的というのは漠としたものなので、それで今年度はこんなことをやっていきたいと思いますという計画を立てるものであるので、「設置の目的」とするなら「今年度は新たに」から始まる文言は要らないように私個人は思う。

(部会長)

・如何だろうか。

(五十嵐委員)

・24年度の活動報告の中で23年度がどうだった、24年度はどういうことを目的に検討することになったという表記が6行ぐらいある。その24年度の活動報告のまとめを受けて、25年度どうなったかという話になるかと思う。名称も変わったので、そこを明記しておけば設置の目的はきちんと答えられるのではないかと思う。

(部会長)

・その通りかと思う。

(副部会長)

・ご意見を参考にさせていただいて、24年度の活動報告のところも参考にさせていただいた上で内容を書かせていただき、また拝見していただく形で検討できればと思う。もう少しご意見等があればお聞かせいただきたいと思う。

(長藤)

・事務局から良いだろうか。今の「設置の目的」という表現の項目だが、実は多くの部会では「昨年度までの経緯」ということで書いていただいている。ただ、この発達障がい児・者支援部会はこの数年毎年名称が変わっており、そういう意味で24年度のまとめも「発達障がい支援部会」として活動報告をしていただいているのだが名称の部分が変わっているということで24年度も「発達障がい支援部会」は設置の目的・役割等という表現をされており、他の部会が4～5年ずっと同じ名称・同じ目的でされてきた取り組みの経緯という表現とされているのと少し違ってきていたので、今年度のまとめも昨年に準じた形で「設置の目的」という表現でまとめを部会長・副部会長にさせていただいたという経過になっているかと思う。

(伊藤委員)

・例えば、自立支援協議会設置の目的というのであれば、それはとても大きな意味での設置の目的で、それはずっと変わらない目的があり、それに向けて活動していくということである。各部会というのは自立支援協議会の活動としては圏域の課題を抽出して、それを解決していくための部会構成を毎年考えましょうということになっているので部会が同

じ名称で毎年続いていくわけではなくて、部会によっては引き継ぎ課題があるとそのまま翌年度もそのまま部会設置になることもある。一定、その部会の目的が達成できれば、もしくは課題が変わったら部会がなくなることもあり得る。部会設置の目的は経過の中から部会設置の目的が出てくるので少しここを、自立支援協議会として発達障がいのある人達にどんな支援をしていくことが必要なのかということの中で今年度も部会としてやるけれども昨年度までの課題は一定解決の方向に至っている部分があるので名称変更をして焦点を変えたということの経過をここへ書き、その経過を踏まえて今年度はこういうことにしたと本当は「今年度」以下を2番の頭に持ってきても良いくらいで今年度はこういうことをすることにするというそこまでの経過でもどちらでも良い。そこに昨年度までの経過と今年度の設置の目的というような意味合いの「設置の目的」になってくる。

(桶谷委員)

・1番に2番の項目を上げて、「部会取り組みの経過」を取ってしまい、2番は内容とすれば全て活動してきた内容なので「活動内容」が良いのではないだろうか。この項目を変えてしまっただろうか。

(伊藤委員)

・運営委員会の方で今まで各部会がそれぞれで書いてきていた報告書を読みやすくまとめる作業をやることになっている。その時に数字のふり方や使い方、言葉の使い方、特にテーマの上げ方みたいなどころでは若干調整しましょうということになっていると思うのでそれも踏まえて、ここは何について書くのかで言うと一つ目には経過、二つ目には内容という風に整理したら書きやすくないだろうか。

(部会長)

・他の部会とも統一することになっているので、大きくは1のところ経過、2のところ活動内容ということで、タイトルがどうなるかについては各部会によって違って良いのだろうか。

(長瀬)

・運営委員会ではできるだけそろえた方が良いという話だが具体的にここまでの線で揃えるという話はまとまっていなかった。他の部会の方は「昨年度までの経緯」という風な形で1番、この何年間かの中で取り組まれたことを上げておられる。

(部会長)

・会議の音声も録っているのでできるだけ正確に表現して、また読んでいただけるような形にしたいと思う。では、3. 取り組みの状況、についてはこれで良いだろうか。ここまでのところで、今年度のまとめについて文章表現、ご意見をいただいたところを踏まえて整理させていただくということで一旦この部分については終わりにしたいと思う。それでは残りの部分について副部会長よりお願いしたいと思う。

(副部会長)

・先程の活動報告、経過等も含めて様々なご意見ありがとうございます。裏面に25年度まとめとさせていただいている。読み上げをさせていただきたいと思う。

※平成25年度のまとめ 読み上げ

・そういう形のまとめにさせていただいた。こちらの方でのご提案と考えさせていただいているので、この部分についてはまとめの文言を含め、次年度の実施の状況もまずは市町の方の方向性を踏まえた体会というような形でご提案として考えさせていただいているのでその部分についても皆さんの方からご意見を拝聴できればと思っているので、よろしくをお願いします。

(部会長)

・このところについては支援ファイルと移行支援シートのところが大きく関わってくるので、前回も少し兒玉委員より説明をしていただいたが改めて簡単に支援ファイルと移行支援シートについて補足として説明していただければと思う。

(児玉委員)

・京都府が数年前に支援ファイルを出したのだが、それは使い勝手も悪く普及もなかなか進んでいないところではあるのだが今回、使い勝手も含めて内容の方を検討させていただいた。これについては支援ファイル、移行シートにしても実際に市や町の子も達に関わることなので各市町の考え方や今までのやり方というか実績等も踏まえた形であくまでも支援ファイルや移行支援シートは活用していただくツールなのでこれをどう活用されるかは各市町の方で検討いただく方が良いと思っている。そういう意味で説明会もさせていただいて、せっかく作ったものでもあるので京都府全体でこういう支援ファイルや移行支援シートに限らず今ここで議論されてきたような子ども達が少しでも暮らしやすくなるように支援が繋がっていくようなそんな仕組みができれば良いと考えているので、それについて一度、市町の方でも各部署に跨っていく話なので、まず市町の中でお話をさせていただく時間が必要かと思っているので、説明会を含めて提案をさせていただいているところである。年度末に説明会も行ったがその後に人事異動があることもわかっている時期に行っているの少し市町の方でも体制が整った上でということになるかと思うので府の方としても直ぐに来年という話にはならないだろうし、時間を切っているわけでもない。ただ、ぜひ数年後には全府下的に取り組めたら良いなという風な考え方は持っている。その辺で市町のご意見をまず聞きたいと思っているので、26年度にもう入っているが一定の時期になればまたどのようなお話し合いがなされたか等ご意見を聞いていきたいと思っている。

(部会長)

・前回、欠席の方もおられるので、改めて説明の方をさせていただいた。

(伊藤委員)

・一つ目の段落のところがしたことのまとめだと思う。そこで言うと、理解していただけたというのはちょっと言い過ぎのように思う。最後のところを「相談できる体制等を教員に周知した。」または「配布した。」で終わらせておいてはどうだろうか。現事実通りのことをお伝えすれば良いのではないだろうか。

(部会長)

・この前段4行のところでは何かご意見はあるだろうか。

(杉本委員)

・2行目の「必要性を含め、議論をしてきた。」というところだが、「必要性を含め」というのは「追加で」ということなので、「何について議論してきたか」というところが大事だと思う。「発達障がい児・者に対する支援の在り方について」等があれば要るように思った。3行目の「福祉サービス等を活用する」とあるが、誰が活用するという意味だろうか。教員だろうか。保護者だろうか。「配布し、活用することで、理解していただけた。」という日本語がちょっと引っかかった。25年度のまとめというところは今年度したことの評価等が入っているので先程文言を変えましようと言った「活動内容」のところの一番最後、「支援ファイルについての研修会が大変、連携を考えていく上で参考となった。」というこの文言の中身こちらではないかと思う。「活動内容」はしたことの列記、それについてどうだったかがこのところに集約されていて、なので「何年度はこうします」という方向性が最後の数行になるのだと思う。何だか混ざっているように思う。

(日野委員)

・文言については平成25年度のまとめとしてパンフレットの配布、それで周知を目指したということと支援ファイルの今後の活用について認識を深めたということがまずあり、「このことから」がこの二つを受けている。そして「次年度については部会を休会し」となるのだが、普通こういう報告の案文については文言についての精査になると思うのだが文言以前にこれを受けて「部会を休会」ということになっているので実質文言以前にこのことについて意見を出し合うのが妥当ではないかと私は思うのだが、如何だろうか。

(部会長)

・もちろん、このことについては意見をいただこうと思っている。

(日野委員)

・どなたもご発言がないのであれば私の方から言わせていただきたいと思います。先程、報告文の中にも部会の目的という

ことで平成24年度乙訓圏域自立支援協議会発達支援部会活動報告というのがある。平成23年度の取り組み経過があり平成25年度に向けた課題としての文書である。平成25年度に向けた課題、パンフレットの作業の継続がまずあり、一番最後だが「教育分野を中心に各機関との関わりを進められるようパンフレット等を活用しながら発達障がい児・者の支援方法等を検討できるシステムの構築や各機関との連携による発達障がいに関する研修会の開催等、具体的な関わりが持てる機会を増やす努力を進めていきたいと考えます。」とある。この部会の後半では支援ファイルが重点となっていたが支援ファイルに特化した話ではなくて、やはり発達障がい児・者の支援方法等を検討できるシステムの構築、各機関との連携が大きな目的としてあるだろうと理解している。報告に戻るがそういうところが平成25年度のまとめとして福祉サービスのパンフレット、支援ファイルの活用について市町ごとの検討が重要なことは当然のことと認めるが、それのみに終始したまとめであり、先程の平成25年度に向けた課題がここで解消しているわけではないと思う。ただ、部会休会については色々諸事情もあり提案がなされたのだろうという風には推測する。しかし、例えば課題整理表に性教育を受けずに異性に興味を持ち妊娠・堕胎を繰り返すというケースが上がっている。私もつい最近これに似たケースに直面したばかりである。18歳以上になったので児童相談所での介入等も不可能でどういう手を差し伸べれば良いのか、どういふ風な相談機関を提案したら良いのか非常に悩んだ。体制やネットワークの構築というのとは別に日々こういう事例が身近で起こっている。私は諸事情があってこの部会が休会するのであれば仕方がないと思う。ただ、表現としてこの平成25年度の課題がこういう風にきれいにまとめられて終わってほしくないと思っている。今年度は色々部会としての課題共有であるとかそういう調整が実質的に非常に難しかった面があったように思う。そういうところになかなか部会の活性化した論議というところに至らなかった。もっと発展的に、支援ファイル等については別の場所で市町毎に論議されるのであればそれで良いのだが、ただ課題は課題としてもう少し真摯に見つめた表現にならないものかと切に思っている。

(部会長)

・この部会の今後のことについて他にご意見があればお願いしたい。

(伊藤委員)

・課題がなくなったから休会するという提案ではないということの良いだろうか。提案としては支援ファイル等のことがあって、それは支援ファイルありきではなくて支援ファイルをツールとしてたくさん課題が山積みになっていることの解決に向けて市町単位で議論をしたりネットワークを作ったり圏域という大きさと機関の複雑さというところで言うと市町単位に委ねるということであって、なくなったのではなくて、あるからこそより有効な議論をしたり実施をするために個別ケースについての検証も自立支援協議会の活動としては必要とされているところである。困難ケースのケース検討から課題抽出をするということになっているのでそれをするためには圏域という枠組みは大きすぎて市町単位の枠組みに一旦委ねた方が良いのではという話の提案だと私は受け止めている。そうであれば、日野委員が言われるように文章の書き方を訂正していけば良いことだと思う。圏域でやるべき課題だと皆さんがおっしゃるのであれば、そこは議論をする必要があると思う。私はそのように思っている。私自身も非常にレアに色々な人達に関わっていく中で圏域という枠組みで議論するにはあまりにもやりにくさを感じるのももう少し身近な方が実質解決に向かいやすいかと思っているところなのでこれはありだと思った。

(部会長)

・伊藤委員がおっしゃってくれた通りでこの自立支援協議会の中の一つの部会としてこういった内容のことを圏域としてやっていくことがスムーズにいかないということを少し感じており、支援ファイルと移行支援シートの今後の導入というところが大きかったのだが一旦市町に委ねる形で、また改めて圏域として考えないといけないことが大きく出てきたところで活発な意見交換ができればと考えている。当然、課題がないわけではなくこの表にしても全員の方のごからいただいたご意見ではないので、書いていただいた方のものをまとめてもこれだけあったということなので、本当にこの圏域の中でこういった形で考えていかないといけないということをもう少し市町の中で落とし込んでいった後ではどうかという考えで今回の提案に至っているという風に理解していただければと思う。まずはこの大きな方向性について何かご意見等はあるだろうか。それでは大きな方向性として一旦、発達障がい児・者支援部会を休会という表現も含め

て一先ず終えるということで考えていく。それを踏まえた上でこのまとめの表現についても一度改めて今から検討するということで良いだろうか。ではこの文章表現について言っていなければならないと思う。

(兒玉委員)

・下2行の「このことから」は唐突すぎるかと思うのでもう少し丁寧に書いた方が良いように思う。日野委員が言われたように支援方法のシステムの構築や関係機関との連携ということがあり、それは市町にまずは委ねることなのでそれについて市町で検討してもらい、やはり市町だけで完結しない部分も出てくると思う。関係機関というのは市町を超えて療育機関や障がい福祉サービス等は広域で受けていただいていたりでするので市町で協議していただいた中で「出てきた課題や圏域としてやっていった方が良いという課題が出てきた時にはやるということなのでその辺ももう少し書き込めないかと思う。基本的にはこういうことになるのだと思うが2行で済ますにはどうかと思ったので、その辺も含め何が検討されたら圏域で部会をもう一回開くのかということをもう少し書き込めないかと思った。

(部会長)

・最後の段落のところ、一旦市町の方に委ねた後、何が浮かび上がってきたら、何が検討されたらというところの表現だと思う。このところは如何だろうか。

(兒玉委員)

・一言で言えば「課題が明確になれば」となるのだが、もうちょっと何かないかと思う。あまりごちゃごちゃ書かない方が良いのではというご意見もあるかと思う。

(伊藤委員)

・二つのことを同時にやっているかと思う。一つ目の上の4行については整理できただろうか。

(部会長)

・ここはまだである。

(伊藤委員)

・先にするのだろうか。

(部会長)

・先にしたいと思う。最初の4行のところに戻りたいと思う。最初の部分で言うと、杉本委員がおっしゃっていた「福祉サービス等を活用する」とあるが誰が活用するのかというところと「議論をしてきた。」とあるが何を議論してきたのかというところである。この表現だが、2行目の頭のところ「情報共有の必要性を含め、発達障がい児・者の支援の在り方について議論をしてきた。」という風にさらっと書くというのも一つかとは思ふ。

(五十嵐委員)

・取り組みの実施したことに対する評価・まとめをここで明記した方が良いと思う。この4行の中にたぶん取り組みの中でパンフレットの一目のことと課題を集約したことがごっちゃになって混ざって入っているのでそこは分けた方が良いかと思う。その課題の中を集約する中でまだまだたくさんの課題があるということも共通認識できたということも表現していくと、その後の休会に向けての課題はあるけれどもこういう理由で休会するが必要になればまたやることになるというニュアンスが残っていくかと思う。パンフレットについては単純に「取り組みの中で教員の方に周知ができた」ということと「その中で利用の促進を図る」というところが明記できればそれで良いかと思う。それがまず一点目だと思う。二つ目の部分のところで課題を集約することによって、よりまた部会の中ではまだまだ課題が一杯あることやネットワークが必要であることの重要性という部分を共有できたということがまず成果だと思うのだがそこで京都府の支援ファイルというツールというものについても研修で理解を深めて、ツールを使うかどうかは置いておき、連携するための仕組み作りということが重要だということがわかり、ネットワークを作るためには圏域という大きな範囲よりは各市町の小さい範囲で検討を重ねた上で課題をまた明確にすることが必要だということがわかったという風に持っていったらどうだろうか。なので、一旦休会して市町に戻してそこでまた課題が明確になってきた時にもう一度やりましょうという風な流れ的なものはどうだろうか。文章が全然出てこないで、ざっくりとした流れではあるがどうだろうか。

(部会長)

・筋立てとしては最初にパンフレットということである。

(五十嵐委員)

・パンフレットを配布して、教育と福祉を繋げていくツールとして作り上げたというのがまず一つだと思う。

(部会長)

・二番のところで、課題を集約することによってネットワークの重要性については共有ができた。

(五十嵐委員)

・それと多岐に渡る課題がまだ山積していることが明確になってきた。その課題の中でもう少しネットワーク作りを強化していこうという方向になり京都府の作っているツールの学習もしたと思う。

(伊藤委員)

・文章を言ってみても良いだろうか。「今年度はパンフレットの整備、配布や発達障がい児・者への支援についての課題抽出の作業を行ってきた。それらのことを通して（または、この作業を通して）支援方法のシステムの構築や関係機関のネットワーク作りについての課題が多岐にわたることを再認識した。「また京都府が」以下からの真ん中の段4行はこのまま活かす。これらの課題解決に向けて有効なネットワークの構築や具体的な事例に基づいた課題の抽出等、市町単位での取り組みに委ねることが必要だと感じた。今後圏域全体での課題が明らかになった時点で圏域自立支援協議会での部会の再開を考えたい。」という感じではないだろうか。

(部会長)

・復唱はしないが伊藤委員より文案をいただいた。今の表現で五十嵐委員がおっしゃってくれていたところも織り込まれた形にはなっているように思う。一旦、この部分については大きな方向性としては、一度体会することについては共有ができたと思っているので文章については今いくつか意見をいただいた中で実際に文章として起こしてみた上でもう一度配信されたものを見ていただきご意見等があれば修正等々を加えていくということをお願いしたいと思う。なるべく早く配信させていただきたいと思う。

(長藤)

・5月16日に全体会がある。それに向けて最終案を確定していただく必要があるので日程的には今週末までに部会長・副部会長が修正案を私の方へお願いしたいと思う。それを皆様方に遅くとも金曜日には配信させていただき、できれば今月末、遅くとも1日の朝までに私の方にご意見をいただいて1日・2日の間に部会長・副部会長と修正案を受けて更に最終案を皆様方に送らせていただくという日程になるかと思うが部会長・副部会長を含めてそれで良いだろうか。

(部会長)

・それで良いだろうか。若干タイトではあるが、何より私達がまずまとめないといけないので今週末に配信させていただくということで今後進めていきたいと思う。今後の部会の在り方、まとめの案（活動報告案）については一先ずこれで議論については終了したいと思う。

4・その他

(長藤)

・今も確認させていただいたが今日のことを基に部会長・副部会長に修正案を作ってください、更に皆様方からのご意見をまとめたものを最終案として5月16日に開かれる全体会で報告し、それを二市一町、保健所が報告という形で受け取っていかれるという手順になるということでご理解いただければと思う。

(部会長)

・本当に難しいと思った5回の会議だった。私達二人の進行だけでなく、部会の方向自体もなかなか上手くいかなくて色んな方からご意見を頂戴した一年間だった。結果的にこういう形で一旦治めさせていただくが、当然課題がなくなったわけではなく、本当に圏域で集まって発達障がい児・者のことを考えるという時に本当にこれは皆でやっていかないといけないというところが何なのかというのを少しまたこの支援ファイルや移行支援シートを通してここにおられる方、

皆さんがそのところに関わっていただけるはずなので、そこでお気付きの点や使ってみてこうだったといことも含めてまた湧き上がってくることになるのだろうと思っている。上手くまとまっていないが、この一年間色々な形で個別にもお話をお伺いしたり、ご意見をお聞きしたり、色々と指摘もいただいた。本当にありがとうございました。一旦こういう形で終わりにはさせていただくが、またいずれ集まる機会が当然あるかと思うので、その節は各部署の皆さんの方にはご協力方々頂ければと思っているので何卒よろしくお願ひします。本日はどうもありがとうございました。